無死一塁における作戦

２年４組　白石　翔太
指導者　長瀧　　剛

１　課題設定の理由

野球では、無死一塁において送りバントをすることが定石となっている。実際に、プロの試合や甲子園などでよく使われる戦術だ。そこで、送りバントは本当に有効な戦術なのだろうか、と考えた。野球についての先行研究を調べたところ、プロ野球での無死一塁のときの送りバント作戦の効果については研究されていたので、高校野球での無死一塁の作戦について研究した。

２　仮説

本研究では以下の仮説を立てておこなった。

(1)　無死一塁において送りバントをした場合、一死二塁となる可能性が高く、その回での得点も低くなってしまうので有効な作戦ではないのではないか。

(2)　無死一塁における作戦として送りバントより有効な作戦があるのではないか。

３　実験・研究の方法

(1)　全国高等学校野球選手権愛媛大会のスコアカード(**写真１・写真２**)からデータを取り出す。

(2)　そのデータを表にまとめる。

(3)　まとめた表やデータから考察する。

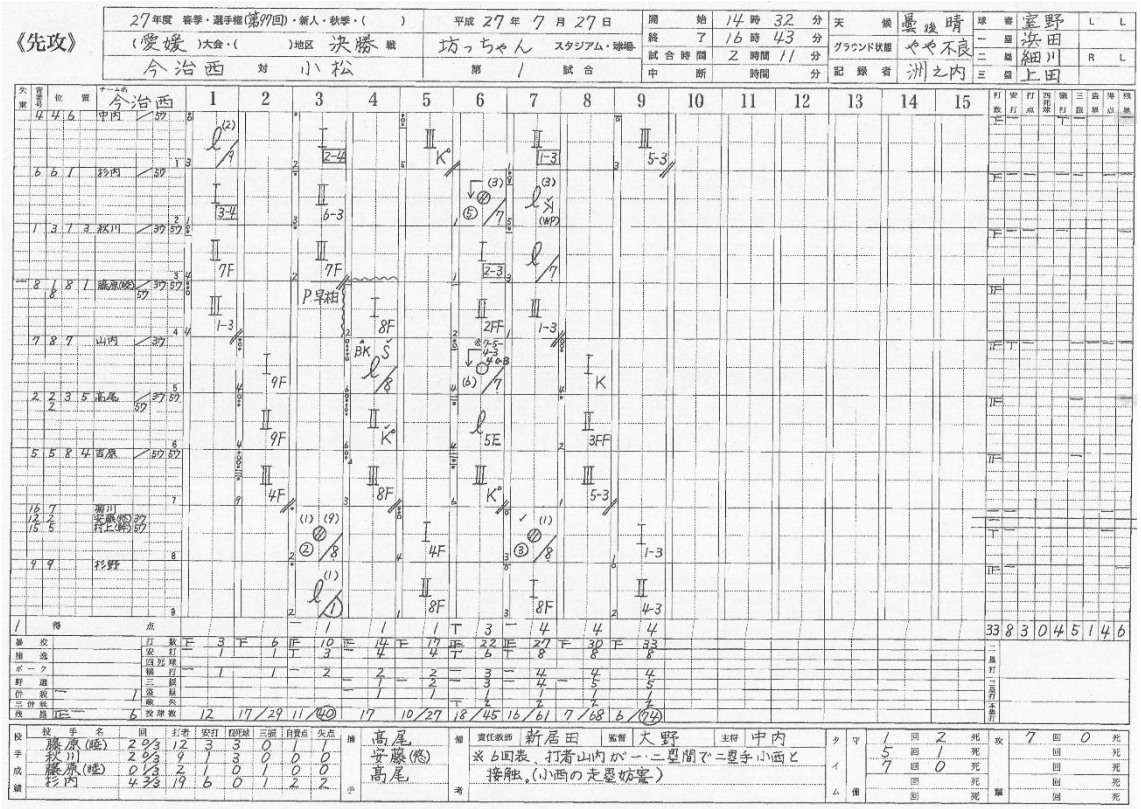

写真１　スコアカード

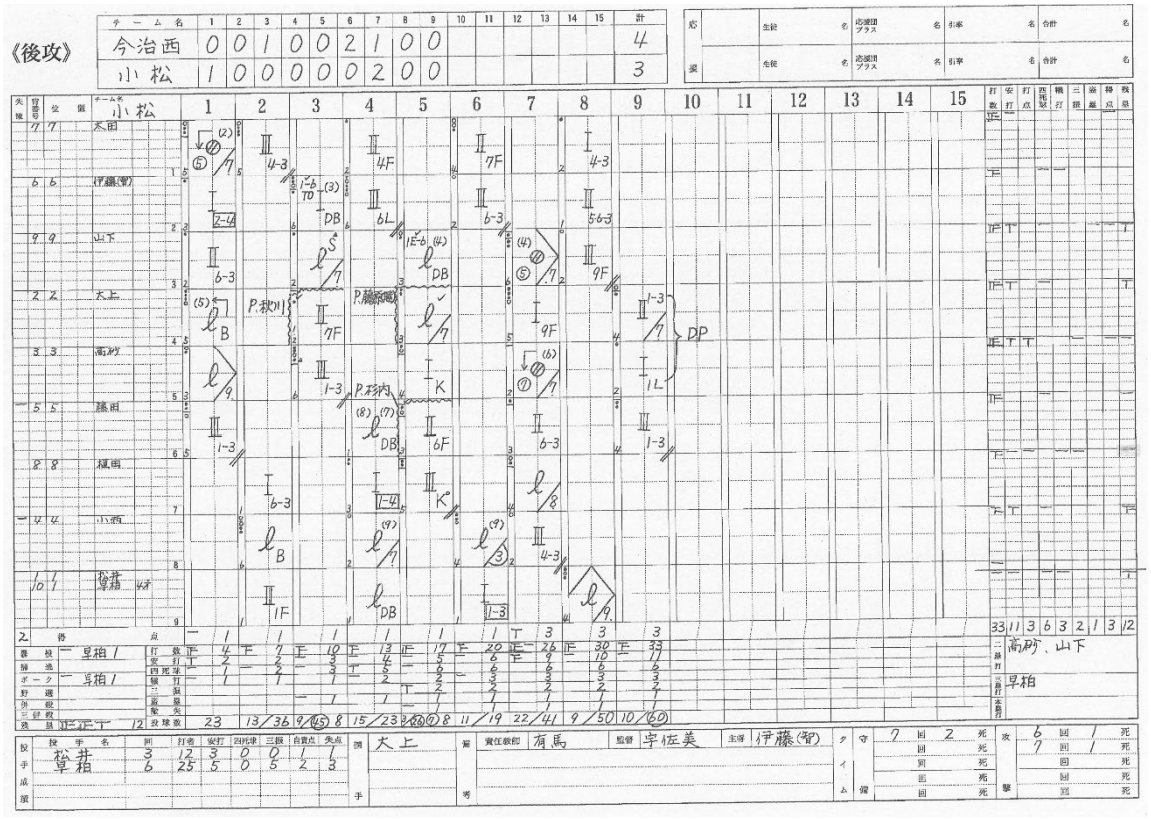

写真２　スコアカード

４　結果と考察

無死一塁において送りバント、盗塁、バッティングの回数やその行動による得点数などのデータを取りまとめた。（**表１**）

表１　全体の回数・得点数

無死一塁	送りバント	盗塁	バッティング
回数（本）	１９５	１６	５６
得点数（点）	９６	１２	３６

また、準々決勝、準決勝、決勝戦での無死一塁における作戦の回数、その後の得点数のデータも表にまとめた。（**表２**）

表２　決勝、準決勝、準々決勝の回数・得点数

決勝、準決勝、準々決勝	送りバント	盗塁	バッティング
回数（本）	３５	４	１１
得点数（点）	１４	２	８

また、それぞれの割合については下の表のとおりである。

表３・４から無死一塁における作戦の割合は、全試合で 0.730、決勝、準決勝、準々決勝では 0.700 と、一番使われている作戦は送りバントだと言える。

表３　全体の割合・得点率

全体	送りバント	盗塁	バッティング
作戦の割合	０．７３０	０．０５９	０．２０９
得点率	０．４９２	０．７５２	０．６４２

表４　決勝、準決勝、準々決勝の割合・得点

決勝、準決勝、準々決勝	送りバント	盗塁	バッティング
作戦の割合	０．７００	０．０８０	０．２２０
得点率	０．４００	０．５００	０．７２７

しかし、得点率はそれぞれ全試合で 0.492、決勝、準決勝、準々決勝では 0.400 と、他の作戦の得点率と比べるとどちらの場合でも明らかに低いことがわかる。これより、送りバントは無死一塁にいてあまり有効な作戦ではないと考えた。また、全試合での盗塁の割合は 0.059 で、得点率は 0.752 で最も有効な作戦のように見える。

しかし、決勝、準決勝、準々決勝では、割合は 0.800 で、得点率は 0.500 と効果が低くなっている。これは、比較的実力差のある１回戦や２回戦で使われたため、全試合での盗塁の得点率が高くなったと考えられる。よって、盗塁は実力差のある場合には有効な作戦であると言える。バッティングに関しては、全試合で見ても、決勝などの実力が拮抗している試合でも割合や得点率に大きな違いは見られない。また、決勝、準決勝、準々決勝のときの得点率は最も高くい。これより有効な作戦であると考えた。ここで、送りバントが得点率の低い作戦であるのにも関わらずなぜバッティングや盗塁より使用頻度が高いのだろう。それは、２塁に走者を進めやすいかどうかだと考えた。送りバントは確実に２塁に走者を進めることができるが、その代わりにアウトを一つ取られてしまう。バッティングは成功すれば塁を大きく進むことができるうえ、アウトカウントも増えることはない。したがって得点につながりやすい。

しかし、バントより成功する確率が低く、併殺などで走者を失ううえにアウトカウントを二つも増やしてしまう可能性もある。そういう理由で送りバントのほうが好まれるのではないかと考えた。

５　まとめ

- 送りバントは無死一塁のときに有効な作戦ではないと考えた
- 送りバントより有効な作戦は、バッティング→盗塁→送りバント、の順に有効であると考えた。
- しかし、バッティングや送りバントの利点や不利なところはまったく違うので、状況の違いで有効かどうか変わってくると考えた。

６　今後の課題

- 盗塁やバッティングのデータがかなり少ないので、正確な結果になっていない可能性があり、データをより増やしていく必要がある。

・　送りバントが得点率の低い作戦であるのにも関わらずなぜバッティングや盗塁より使用頻度が高いのかについても考察にすぎず、より明確な証拠や根拠のもとに証明していく必要がある。

参考文献

・及川研・栗山英樹・佐藤精一(2011)「野球の無死一塁で用いられる送りバント作戦の効果について」コーチング学研究第 24 巻第２号
・鳥越規央「９回無死一塁でバントはするな」祥伝社新書 234